

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	子どもエコクラブ支援事業	会計	一般会計	事業No.	333	施策順No.	54-001
		事業種別	政策・その他	予算科目	4-1-5-15-2		
政策	5人の営みと自然・環境が調和したまちづくり			課等名	環境課		
施策	54 自然とのふれあいと環境学習の推進			事業期間	開始	15	終了

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	飯田市内の子どもエコクラブ及びエコクラブ会員					A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない					
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)						19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
		飯田市内のエコクラブ数						8	5	7	8	9
		飯田市内のエコクラブ会員数(人)						265	258	270	280	300
意図	各エコクラブの活動を支援する エコクラブ間の交流を図る											
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)					19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	飯田市内のエコクラブの数					8	5	7	8	8	9	B
	観察会などに参加した子どもたちの中で交流ができたとする子どもの割合(%)					65	70	50	80	75	85	
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】	目標としている割合は達成していないが、21年度に比べて増加している。参加することも異なるが、より多くの子どもたちが交流できる様、企画内容を考える必要がある。											

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<ol style="list-style-type: none"> 市町村は、全国子どもエコクラブ事務局が募集する子どもエコクラブの事務局を担うこととされている。 飯田市内の子どもエコクラブの募集を行い、キットや通知を届けるなど、事務局としての活動を行う。 飯田市として独自に、各クラブの活動を発表する場を設け、意識の高揚と市内のエコクラブ間の交流を図る事業を開催する。 		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	<ol style="list-style-type: none"> 全国事務局から送付の通知、キット等を各エコクラブへ配布 「水性生物観察会」の開催 	<ol style="list-style-type: none"> 配布回数 開催数 参加者数 	<ol style="list-style-type: none"> 4回 1回 40人
23年度実施計画	<ol style="list-style-type: none"> 全国事務局から送付の通知、キット等を各エコクラブへ配布 「飯田子ども環境会議」「生物観察会」等の開催 	<ol style="list-style-type: none"> 配布回数 開催数 参加者数 	

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金					
	県支出金					
	起債					
	その他					
一般財源		41	2	39		
計(A)		41	2	39		
正規職員所要時間						
臨時職員等所要時間						
人件費計(B)			0			
トータルコスト A+B			2			

子ども環境会議の内容等によっては、長野県環境保全協会などの補助金をもらうよう考えていく。

4 事業に対する市民や議会の意見

<ul style="list-style-type: none"> 子ども環境会議参加者アンケートでは楽しく環境や温暖化について学べたという意見がある(20年度)。 子ども環境会議は子どもエコクラブメンバーだけでなく、他の子どもたちや大人にも参加してもらってはどうかとの意見もある(20年度)。 水生生物観察会の参加者より、勉強になり友達ができてよかった。また参加したいとの意見が多数あった。
--

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	自然とのふれあいや、環境学習から環境意識が向上する。	施策の成果指標又はムトス指標	環境学習会に参加したことがある市民の割合(%)
この事務事業は施策の目的達成にどのよう に貢献しましたか	4年間の振り返り	エコクラブに登録する団体が年々増え、各エコクラブの活動が活発になることで、会員の環境意識が高まってきている。観察会などを 通じ環境について学びながら、お互いの交流が進められている。		
	後期に向けた課題	引き続きエコクラブへの登録促進を行うと共に、より子供が参加しやすい学習内容の検討が必要。		
この事務事業の成果を向上 させるためにどの ような工夫を してきましたか	4年間の振り返り	会議以外にも、実際に体験できる機会として水生生物観察会を実施。		
	後期に向けた課題	各エコクラブの活動がより活発になることで、子どもたちの環境に対する意識が高まり、飯田市民全体の意識も高まる。したがって、各ク ラブへの働きかけがより必要と考える。 エコクラブ数を増やす取組が必要である。		
コストを削減す るためにどの ような工夫をし てきましたか	4年間の振り返り	水辺の活動や子ども環境会議で行う内容について、最小限の経費で行っている。		
	後期に向けた課題			
受益者負担の 程度、市が関 与する程度は 適切でしたか	4年間の振り返り	制度上、市町村が窓口と決められている。市として子どもたち(エコクラブメンバー)の意識啓発に取り組んでおり、費用負担を求めるも のではないと考えられる。 水辺の活動に係る費用のうち、レクリエーション部分は相当する額を徴収している。		
	後期に向けた課題			
多様な主体の役割の 発揮状況 ①その主体は誰で、 どのような役割を果 たしましたか。 ②その主体が役割を 発揮するために、行 政はどのような働き かけをしてきました か、又は、配慮して きましたか	4年間の振り返り	対象を小中学生から拡大したことにより参加者が幅広くなった。また、環境チェッカーも観察会に参加し、交流、知識の向上が図られて いる。 行政が事務局を行いながら、多くの主体の参加を促している。		
	後期に向けた課題	会議形式では参加が少なく、子供も実感し難いため、より多くの参加が得られる形式の検討が必要。 活動を通じて環境に対する意識を広げていく取り組みが必要である。		
全体を通じて	4年間の振り返り	エコクラブに登録している会員は増え、一定の活動はできているが、全体で交流、参加できる機会が減ってきている。		
	後期に向けた課題	各エコクラブの活動がより活発になることで、子どもたちの環境に対する意識が高まり、飯田市民全体の意識も高まる。したがって、各ク ラブへの働きかけがより必要。 エコクラブ数を増やす取組が必要である。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------